

月例会ダイジェスト【76】

テレワークを軸とした“新たな働き方”が普及する状況を受け、産業保健活動においても“遠隔化”の動きが広まりつつある。7月の定例会は「産業保健活動のオンライン化—現状と展望」というテーマのもと、日本産業衛生学会・遠隔産業衛生研究会（以下遠隔研）との初コラボレーションで開催。遠隔通信技術を用いた産業保健活動が直面する課題や、今後の展望について意見が交わされた。コーディネーターは、福田洋氏（順天堂大学）、金森悟氏（帝京大学大学院）、海野賀央氏（SCSK（株））、安倉沙織氏（アビームコンサルティング（株））、小島健一氏（鳥飼総合法律事務所）、武藤剛氏（北里大学）の6名。また、遠隔研から神田橋宏治氏、石澤哲郎氏、梶木繁之氏、守田祐作氏が発表者として参加した。

「さんぽ会の紹介と企業の新型コロナ対応」というテーマで登場した福田氏は、在宅勤務中の身体的・精神的ストレスを指摘する声が企業から多数寄せられた同会によるアンケート結果や、ウィズコロナの生活がもたらす心身への健康影響を議論した日本健康教育学会のワークショップを紹介。「今までは会社の中で3管理（作業環境・作業・健康管理）をやってきたが、今後はそれを自宅に拡大する必要が出ている」と述べた上で、ICT（情報通信技術）を活用したコミュニケーションの重要性など、新常态下における職域の健康支援の在り方を示した。

金森氏は「2020年度さんぽ会夏季セミナーのご報告」というテーマで、同会が昨年開催した夏季セミナーの内容をレポート。教育、経済など健康を規定する社会的要因が大きく揺らぐなか、健康格差を広げないためにもICT活用を検討していくべきだと説いた講演や、コミュニケーションツールの活用例についてディスカッションされたグループワークの内容を紹介した。「コロナ収束後もテレワークは残る。感染症予防はもちろんのこと、テレワークによる長時間労働や身体への影響など新たな健康課題が発生することに伴い、ヘルスプロモーションの価値はますます高まっていく」と、“ニューノーマル”に対応する健康教育、ヘルスプロモーションの必要性を訴えた。

遠隔研からは、まず神田橋氏が「遠隔産業衛生研究会について」と題して、コロナ禍以前から活動していた同研究会の成り立ちや、活動内容について説明した。

続く石澤氏のテーマは、「遠隔産業衛生に関する法制度」。「労働安全衛生法では遠隔産業保健活動について明確な記述はなく、通達ベースで変更となる」とした上で、法定

面接である「長時間労働」「高ストレス」以外の産業医面接については、明確な規定は設定されていないことを説明。また、衛生委員会や安全衛生教育などを遠隔実施可能とする通達が出ている反面、職場巡視や産業医以外のスタッフの活動については、法的整備が追いついておらず、課題が多数あることを指摘した。

「遠隔面談の促進要因とは？」という話題提供で登場した梶木氏は、遠隔での産業保健活動の促進・阻害要因について話し合った、同研究会のグループワークの結果を紹介。「緊急性が高い場合は、日時が制限される対面よりオンラインのほうがいい」という促進要因や、「会社が遠隔に慣れていない」などの阻害要因を挙げた後、「会社（業種や社内ルールなど）」「環境（ツールやネットワークのスペック）」「個人（対象者の状態、産業保健スタッフの面接スキル）」という“遠隔活動を左右する3つのポイント”を示した。

遠隔研から最後に登場した守田氏は「遠隔面談のTIPs」というテーマで、遠隔研で行ったアンケートや自身の事例をもとに、遠隔での面談活動を効果的に進めるためのポイントを紹介。まず「社内の共有スケジューラーに面談の日時が表示されてしまう」「相手がオンライン会議室に入ってくられない」などのトラブル例を挙げ、「スケジューラーから面談日時を通知する際は、非公開設定にする」「電話番号を押さえておく（連絡手段を確保しておく）」といった対応策を示した。また、「パソコンのカメラ位置が目線と同じ高さに来よう調整する（“上から目線”にならない）」「マスクはせず、表情が映るようにする」など、面談時に相手をリラックスさせるための工夫についても触れた。

後半のディスカッションでは「復職の可否に関わる面談は遠隔で行えるか」というトピックに対し、「オンラインは対面に比べ、産業保健スタッフが十分な情報を得にくいことがあるため、初対面では顔合わせ程度の情報収集とし、復職判定は次回以降の遠隔面談にしてみても」「遠隔でやらざるを得ない場合でも、1対1は避け、復職可否の最終判断は人事側が行うと確認しておく」といったアドバイスや、面談の内容によって遠隔の推奨レベルを設定し、遠隔でもよいもの、対面が推奨されるものを分類して関係者と共有した例など、多数の意見が寄せられた。

最後に遠隔通信技術の進歩や法の整備などの“追い風”に対する期待や、コロナ禍で蓄積された事例とノウハウをもとに議論を深め、新しい産業保健活動の確立を目指す必要性を各演者が訴え、定例会は閉幕した。

さんぽ会の詳細は下記サイトをご覧ください。

- ホームページ <http://sanpokai.umin.jp>
- FBページ <http://www.facebook.com/sanpokai>